



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 ☎:059-331-1670
 fax:059-332-0733

掲示板法話

夜昼常に護られているから 淋しくありません

葬儀の翌日、お寺参りに来られた遺族の方に「二年前にお母さんを亡くし、この度、お父さんにお別れになられ、さぞお寂しいことでしょうね」とご挨拶したら、思いがけぬ答えが返ってきました。

「ええ、淋しくない訳ではありませんが、父は母亡き後も一生懸命一人で頑張って生きてくれました。そう思うと感謝の気持ちが出てきます。いつかコーラスで歌った『聖夜』の歌を歌いながら、亡き父も母も仏さまに成って夜昼つねに護り続けていてくれるのだと思うと、さほど淋しくはありません」と言われ、自然にその歌を口づさんで下さったのです。

「聖夜」とは九条武子さま(本願寺二代・明如上人次女)作詞、中山晋平作曲の仏教讃歌で、次のような美しい詩です。

1、星の夜空の美しさ

たれかは知るや 天あめのなぞ

無数のひとみ 輝けば

歓喜になごむ わがこころ



2、ガンジス河の 真砂まごこより

あまたおわする ほとけたち
 夜昼つねに 守らすと
 聞くになごめる わがこころ

その方は特に、2番の歌詞を口づさんで下さったので、一緒に歌いました。「この2番の歌詞は特に、『仏説阿彌陀經』のお心に沿った言葉ですね。ほら東方、南方、西方、北方、下方、上方の世界のガンジス河(恒河)の砂の数(沙数)のとき数限りなき諸仏方が、阿彌陀仏のお徳を讃えておられると説かれています。ガンジス川の砂のごとき無数の仏たちとは我々のご先祖もその仲間です。十代で一〇二四人、二十代で百数十万、三十代さかのぼれば二十億人以上、僅か千年足らずの時間でこれほどの数となれば、もう無数と言ってよい。この両親も揃って仏さまの一員となって護っていて下さると受け止められる世界には感謝の心ばかりなのですね」と喜ばせて頂いた。そして、一週間ごとの中陰法要でお参りの人々にもこの歌を紹介して詩

を味わい、「聖夜」の歌声が響く法要になりました。ご苦労の多い人生をお念仏の教えに遇い、生き切って往かれた方の亡き後には、この世、あの世という境を超えて、安らぎと温もりの仏縁が広がっています。



写真アラカルト



★行事ご案内

◆報恩講 講師 藤 大慶先生(京都府)

11月2日(木) 午後1時半・夜6時半

午後、法話、夜(親鸞聖人生涯映像、音楽法要、琴、法話)

※お非時(午前11時より12時)手作り料理をどうぞ!

3日(祝・金) 午前10時(法話) ※弁当有

◇秋勤進11月23日(祝・木)午前8時より行事さん手分けして巡回、皆様のご協力よろしくお願ひします!

◇一縁会テレホン法話 Ⅷ 059-354-1454
 10/9から(住職)、10/16から(坊守)10/23から(若院)が夫々一週間ずつ担当。3分間で聞ける法話、是非お電話下さい

◇『第7回百五銀行善正寺門徒展』阿倉川支店、10月1カ月間、11月2日3日の報恩講中にも本堂展示。

◇初参式の赤ちゃん幼児募集! 来年4月21日(土)午後1時善正寺善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索、1年分の寺報閲覧。毎日更新ブログ「住職と坊守のつれづれ日記」好評。開設丸9年3か月で25万訪問、一日平均80人~90人、悩み相談、大歓迎! 即返信

◇絵手紙教室 11月14日(火)午前10時26回目川崎光子先生

◇キッズサンガ11月4日(土)4時鐘撞き夕方5時、年中無休

◇12月2日(土)午前10時半『お内仏報恩講』庫裏で

◇新納骨堂:後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事場所でお困りの方:本堂使用可。寺に早めにご相談下さい。

坊守スケッチ 真心の香典返し

先日宅急便で香典返しが届きました。差出人は姫路のUさん。9月初めに御主人様(84)が急死。埼玉のKさんから後日に訃報を聞いて、急遽お悔みの手紙と香典を送りました。Uさんとは30年以上のお付き合い。知る人ぞ知る『なんまんだぶ煎餅』の考案者。わが寺の法要には必ずお供えします。そもそもUさんが『なんまんだぶ煎餅』作成のきっかけは、平成3年、善正寺住職継職法要のお祝い品として考案。大八車で牛乳と新聞配達をして貯めたお金を、煎餅屋に持ち込んで作成を依頼。煎餅は参詣者に大好評で、休憩時の茶菓子としても喜ばれています。亡きご主人様は8月初めまで畑仕事に励まれ、病名が判明した時には手遅れ。2回の抗がん剤治療も空しく、わずかに2週間程の入院でお浄土へ旅立たれました。残されたご遺族の悲しみは如何ばかりかとお察しします。

香典返しは、一般的に49日の忌明け法要か、葬儀の際に金額に応じたカタクグギフトが返礼として配られます。しかしUさんの香典返しは、他の場合とは少し違っていました。A3用紙4枚に、家族の思い出写真や、子供や孫全員からのお礼メッセージがイラスト付きで掲載。一目見ただけで、故人が日頃から家族が集うのが大好きで、家族を大事にされた思いが伝わり、寛容で温かいお人柄が偲べれます。

Uさん(78)も、生涯お念仏を大事にされ、聴聞を欠かさず、どんな苦難も明るく乗り越えられた女性です。「主人が死んだとは思っていません。どこか外国旅行へ出かけたような気持ちです。いつでも私達の元へ戻って来て励まし見守り続けてくれると信じています」と平生と変わらぬ電話口の声。「信を慶び、願いに生きる」念仏者の確固とした姿勢を見せて頂きました。私自身も、Uさんに育てられているという思いを強くしました。

◇「秋勸進」11月23日(祝・木)午前。在所は行事さん、住地は世話方と住職が手分けして巡回します。ご協力よろしくお願い申し上げます。

寄稿

四日市市 釋妙水
運動会駅まで届く大歓声
抱っこして父さん走る運動会

四日市市 釋清風
栗剥きて栗飯夕餉平和かな
み仏に護られ偲ぶ星月夜
あら不思議孫の機嫌と秋の空
名月やお供え目ざし児ら走る
花飾りスナック菓子の芋名月
裾持ちてゆらりと急ぐ秋の雨
幼子も前世の縁と秋雨かな



☆若院夫婦の「育自な毎日」その35
去る10月1日の第2回ファミリコンサートへは、大勢の方々のご来場を賜り有難うございました。私の企画・運営したのですが、今後地域に根差し、寺との新しいご縁作りが広がると願っています。

第1回目は一昨年の開催で、当時は長男が3歳半、長女は1歳の誕生日前この時長男は歌に合わせて楽器を叩いたりして大張り切り。長女は私の父の膝の上でお手々パチパチ。

それから2年経った2回目は、長男は幼稚園の友達と照れ臭がつて大人しくしていました。一方長女は手遊び歌では一生懸命に真似をし、大型絵本では最前列に陣取り大喜びしました。今回は赤ちゃんだった近所の子供も、今回は元気に走り回っています。

駆けつけてくれた私の友人も、ママになって小さなお弁当を持参。「みんなママになったのだね」と感慨深いものがあります。

「子育てを通して親も成長する」とよく聞きます。子供が突然泣き始めたり、全く言うことを聞いてくれなかったり、子供は親の思い通りには育ってくれません。親には様々な悩みや苦勞が次々に押し寄せます。他の子供と比べて「どうして遅いの」とか「イライラするね」とか、私も毎日毎日痛感。それでも「どうすればよいのだろう」と悩みつつ、一つ一つを解決していくことが、「子育てイコール親育て」で

はないかと、最近気付き始めました。まさに連載のタイトル「育自」という言葉にぴったりですね。(若坊守)

お知らせ

◇「報恩講」(11月2日午後・夜と3日午前)が動まります。浄土真宗門徒の年間最大行事。皆様のご参詣お待ちします。またお非時は11月2日前11時から12時。手作り料理をお楽しみ下さい。夜には琴の演奏も有ります。お誘い合わせてお越しください。

◇第2回ファミリコンサートには多数の方々にご来場賜り感謝します。用意した椅子席が足りずに次々補充。初めてお寺の本堂に上がった親子連れが大半。お寺の新しいご縁作りになったのではないかと思います。

◇一縁会テレホン法話。(TEL059・354・1454)10月9日から30日まで、善正寺の住職、坊守、若院が一週間ごとに登場。是非一度お電話して3分間の法話を聞いて下さい!

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」第287号をお届けします。◇今の時代は便利で快適な文明社会だが、過労死、人手不足で心を病む人も増えている。不安と混乱の時代でもある。◇にわか仕立ての政党が並ぶ劇場型選挙戦。生煮えの軽い政策ばかり並び、将来が心配になる。◇だが過去を引きずり、取り越し苦勞しても何も生まれない。今を地に足付けて生き切っていきたい。報恩講の秋、代わりなきこの身を引き受けて生きる道がある。仏法の智慧に学びたい。

秋が刻一刻と深まります。これを書いている十月下旬は衆議院選挙真っ最中。政局がどちらに傾くのか不明。しかしマスコミに踊らされたブームでは、国民の将来は任せられません。目まぐるしく変わる政局に、私達は何を信じたらいいのか戸惑います。おそらく善正寺だより十月号がお手元に届く頃には、結果が出ていますがどの政権になろうとも安心して暮らせる社会になくて欲しいと思います。左へ左へブックで人間が変われる三つの方法という記事を見つけてました。①の時間配分を変える②住む場所を変える③付き合う人を変える④寺に住む私は④は不可能ですが、①と③ならばチャレンジ可能です。歳の所為か、最近早寝早起きになりました。若い頃のように夜遅くまで働くことができなくなりました。朝の時間を有効活用するだけで、気に張りが合います。午前三時に起床して前日の出来事をブログにUP。それから重坂山散歩。規則正しく日々丁寧な生きることことで、身近な所で見つかる小さな幸せにも気付きました。この積み重ねこそ、老いを生きる喜びではないでしょうか。寺に嫁いだお席で世代を超えた法友と出会います。苦勞を乗り越えた人々の経験談から、生きる心構えを学ばせて頂きます。「自分が変われば相手も変わる」。それに気付けば新しい道も開けます。十一月二日、三日は報恩講です。二日昼前には手作りお非時も用意して、皆様の「ご参詣をお待ち申し奉ります」。合掌 平成二十九年十一月 善正寺坊守 栞